

令和2年度 事業計画

公益財団法人 日本股関節研究振興財団

I 基本方針 — いつまでも元気で歩くために —

公益財団法人 日本股関節研究振興財団は、股関節に関する研究、診断治療技術の開発及び運動器の健康寿命を延伸するための研究を奨励して参りました。

人間は沢山の関節を持ち、これを意識的にあるいは、無意識に駆使しながら生活しています。この沢山の関節の中で最も大きく、また、複雑な運動をしているのが股関節です。そのため、股関節疾患には、発育性股関節脱臼、変形性股関節症、ペルテス病、大腿骨近位部骨折、股関節の脱臼骨折など、いずれも簡単に治療できないような疾病がその名を連ねています。

本年度も当財団は、股関節で悩んでおられる多くの人々のために活動を展開いたします。

一方、日本は世界一の長寿国となりました。しかし必ずしも全ての人が元気なまま、長寿を全うするわけではありません。統計によれば、平均寿命から心身ともに自立した生活を送ることが出来るいわゆる健康寿命を差し引いた期間は9～13年にもおよび、この期間は、病気で入院したり、寝たきりや介護を受けていることとなります。このような介護状態を減らし、いつまでも元気で歩くために、特に人間の歩行に重大な機能を担っている股関節をケアすることが重要となっております。

これに関連し、国の「新健康フロンティア戦略」及び「健康日本 21」の事業が推進されており、また公益社団法人日本整形外科学会の提唱する「ロコモティブシンドローム」という新しい概念が誕生して12年が経ち、国民に浸透しつつあります。

また、昨今では日本老年医学会が「フレイル」という概念を提唱し、健常から要介護へ移行する中間の段階と言われ、健常なうちから「フレイル」を予防することの取り組みも求められています。

このような状況下で当財団は設立 30 数年を経て「人生 100 年時代」を迎え、その役割はさらに増しているものと考えております。

今後とも、当財団は、股関節障害の不安を取り除くための「股関節の学術研究の奨励と股関節に関する普及啓発」に加え、「ストップ・ザ・ロコモティブシンドローム」、「フレイルの予防」及び「健康寿命延伸」のための活動を積極的に展開し、社会貢献を果たして参ります。

II 個別事業

1. 助成事業（公1）

（1）助成金支給事業

① 研究助成事業

股関節疾患及び股関節に関する他の疾患の学術研究、診断と治療技術の開発及び健康寿命を延伸するための研究に関する優秀な研究に対して、公募により助成を行います。

ア 助成金額 1 件 70 万円以内

イ 助成件数 3 件以内

ウ 選考方法 理事会で選出された学術経験者による助成選考委員会にて内定します。

② 研修助成事業

股関節医療の発展に貢献できる人材を育成するため、海外及び国内の研究機関において、トップレベルの研究者から専門知識を習得するための研修に対して、公募により助成を行います。

ア 海外研修助成事業

- (ア) 助成金額 1 件 35 万円以内
- (イ) 助成件数 3 件程度
- (ウ) 選考方法 理事会で選出された学識経験者による海外研修助成選考委員会にて内定します。

イ 国内研修助成事業

- (ア) 助成金額 1 件 15 万円以内
- (イ) 助成件数 4 件程度
- (ウ) 選考方法 理事会で選出された学識経験者による国内研修助成選考委員会にて内定します。

(2) 研究・研修成果報告書作成事業

研究及び研修助成金の成果報告書を作成し、厚生労働省、各大学医学部及び関係機関に配布します。

研究成果報告として、本年は、平成 30 年度に当財団が交付した研究助成金により、平成 30 年から令和元年に実施された 3 件の研究成果を取りまとめます。

また、令和元年度に当財団が交付した研修助成金により実施された海外研修成果報告として 3 件、国内研修成果報告として 4 件の研修成果を取りまとめます。

① 研究成果報告書

ア 「第一・第二世代 XLPE 製寛骨臼ライナーの厚みが機械的耐久性に及ぼす影響の解明」

東京医科大学 立岩俊之

イ 「急速破壊型股関節症の早期診断方法の確立」

神戸市立医療センター 中央市民病院 安田義

ウ 「スクレロチン分泌低下に伴う大腿骨近位部骨折予防戦略」

信州大学 中村幸男

② 海外研修成果報告書

(研修先)

カリフォルニア大学

ユタ大学

シダース・サイナイ メディカルセンター

(研修者)

大阪産業大学工学部機械工学科 花之内 健仁

徳島大学整形外科 後東 知宏

加古川中央市民病院整形外科 岩佐 賢二郎

③ 国内研修成果報告書

(研修先)

岡山市立市民病院

北海道大学病院

産業医科大学

佐賀大学

熊本医療センター

(研修者)

神戸大学大学院整形外科 亀長 智幸

市立釧路総合病院 整形外科 下段 俊

東京慈恵会医科大学 整形外科学講座 羽山 哲生

弘前大学大学院医学研究科 整形外科学講座 原田 義史

(3) 股関節研究セミナー開催事業

医療関係者等に対して股関節疾患に関する治療方法等の研究成果並びに海外および国内研修成果報告のセミナーを10月に開催予定です。

① 研究助成事業

本年は、平成29年から平成30年にかけての研究について、下記の3件の研究成果を発表する予定です。

ア 「Micro-engineering を併用した血管付人工骨による股関節巨大骨欠損の再建」

京都大学 河井 利之

イ 「先天性股関節脱臼の病態解析による関節メカニカルストレス応答機構の分子生物学的解析」

岐阜大学 河村 真吾

ウ 「人工股関節置換手術後のゴルフが下肢筋力及びQOLの評

価に及ぼす影響」

清心会藤沢病院 石井 紀夫

中京大学 渡邊航平

② 海外研修助成事業

本年は、令和2年度の研修について、研修結果報告を発表する予定です。

③ 国内研修助成事業

本年は、令和2年度の研修について、研修結果報告を発表する予定です。

2. 普及啓発事業（公2）

（1）股関節市民フォーラム開催事業

一般市民の方々を対象に、股関節の病態、予防等についての正しい知識をわかりやすく、楽しい講演を中心に股関節市民フォーラムを東京にて開催の予定です。

（2）普及啓発事業

本年度も、「人工関節ステッカー」を作成・配布して、広く一般国民の方々向けに股関節に関する情報提供を行い、普及啓発を図ります。

また、本年度は、「新・股関節がよくわかる本」の内容についてWEBを活用し、股関節の正しい知識についての周知を展開します。

（3）インターネット情報提供事業

本年度も引き続き、ウェブサイトの内容を充実し、より見やすく、タイムリーに新しい情報を公開します。

3. 運動器健康寿命延伸事業（公3）

（1）運動器健康寿命延伸体操の研究開発及び普及促進事業

健康寿命延伸のための股関節を中心とする「運動器健康寿命延伸体操（ロコモ体操）」の研究開発をすすめ、外部機関が開催する講演会等へ出演し、「ロコモ体操」の普及を促進します。

（2）体操指導者研修事業

運動器の健康寿命延伸のため、広く一般国民に運動器、特に股関節の重要性を周知する、正しい知識を持った専門家の養成研修を実施する予定です。

4. 管理事業

（1）理事会

日 程	開催場所
令和2年5月	福岡市（予定）
令和3年3月	横浜市（予定）

(2) 評議員会

日 程	開催場所
令和2年6月	東京都（予定）

(3) 監事監査

日 程	開催場所
令和2年4月	東京都（財団会議室）

5. 股関節らくらく募金

平成25年秋より実施し、現在参加者数90名（令和2年1月現在）です。

本年度は、参加者数の目標を110名とし、きめ細かいフォローにより財源の安定化を図ります。